

アコースティック・サウンドを追求して26年。

この伝統が、シーンを生き抜く数々のモーリス・オリジナル・アイテムを創り出してきました。



ARTIST CUSTOM S.T.



ARTIST CUSTOM S.K.



PURE ACOUSTIC SOUND

現在耳にしているポップ、ロック系サウンドの源となっているアコースティック・サウンド。そのルーツ・ミュージックであるトラディショナル・フォーク、カントリー、ブルース etc. そのサウンドのほとんどが、ブルース・ティック・ギターによって作られている。メタリックなディストーションのギターサウンドが身上のハード/メタル系でさえも、ロックン・ロールというスタイルが、カントリー・ミュージックとブルースを母とする“ニューミュージック”である事を考えれば、エレクトリックによってブーストされたアコースティック・ミュージックとも書えるだろう。このアコースティックギターの歴史をさかのぼると、リュートなどを母体としたガット・ギター(クラシック・ギターとも呼ばれている)がその始まりとなる。そして、1800年代に入り現存ガットタイプと並んで“アコースティック”と呼ばれているもう一つのタイプ、スチール弦によるフォーク/ウエスタン・タイプが登場し、アメリカン・ミュージックシーンを中心にフォーク、カントリー、ブルース、ジャズなどを発展させて行くのである。ポップ、ロック・シーンにおけるアコースティック・サウンドと言うと、やはり60年代のアメリカン・フォーク・シーンが上げられるだろう。時代に対するメッセージを歌うフォーク・ソングは、フォーク・ロックへと発展するが、より多くのオーディエンスに向かう様になりエレクトリックへとサウンドは流れて行く。しかしPAの発達と共にアコースティック・ギターは、そのエレクトリカルなサウンド、大音量の中で、そのサウンドを対等にアンサンブルさせられるようになると、ウエスタン・コースト系ロックを代表とする様に、アコースティック+エレクトリックと言う。アコースティックを抜きにしては作る事のできないサウンド、ジャンルも生まれて来る。アコースティック・ギターならではのナチュラルであたたいい響きはエレクトリックなサウンドのアクセントとして、又サウンドに“やさしさ”“温かみ”を与えるため、プログラムの中で、オーディエンスをリラックスさせるためのサウンドメイクとしてなど、エレクトリック・サウンドの発展と共にアコースティック・ギターも非常にアンサンブルの幅が広げられ、エレクトリック・アコースティック・タイプも含め、ガット、スチール共に非常に幅広く、様々なジャンルの中に、そのサウンドを見つけた事ができる。ギタリスト、特にエレクトリック派にとって、良いアコースティック・ギターは、絶対に一本は持っていたい楽器の一つである事は間違いないだろう。エレクトリック・アコースティックも含め様々なジャンル、サウンドに対応した12のシリーズ / タイプをもつモーリス・アコースティック・ギター。ぜひギターコレクションに加えギターワーク、サウンドメイクに新たな協力を創り出してほしい。

NEW TEC. ACOUSTIC SOUND

ニューミュージック、ポップ、ロック、フュージョンをはじめ、ワールドミュージック/エスニック等といったシーンで、アコースティック・ギターのサウンドを聴く事ができるが、これほどまでにアコースティック・ギターが使われる様になった最も大きな要因は、PICK UP付アコースティック、つまり「エレクトリック・アコースティック・タイプ」と呼ばれる「エレアコ」の出現だろう。かつて、エレキ・ギターはアコースティックの敵であった。サウンド・システム(PA)が未発達な事もあり、エレクトリックに増幅された楽器編成の中におけるアコースティック・ギターはまさに悲慘に近かった。マイクによって拾われてもハウリやすく、又モニターシステムが不十分なこともあり、アコースティック・ソロにしても、良いサウンドでプレーヤー、オーディエンス共に供給させるのはむずかしい事であった。しかしPAの開発と共にアコースティック用ピックアップ・アンプも良い物が開発され、更にアコースティック・ギターの持つサウンドを殺すことなくエレクトリック・ギターとして生まれ変わって登場したエレアコによって、それまでサウンド・バランスのむずかしさや、セッティングのわずらわしさのためステージにおいて再現する事が出来ていなかったアコースティック・ギターの全てが自由に開放された、と言っても良いだろう。ステージだけではなく、レコーディングにおいても、エフェクトなどがよりクリアーに、そして効果的に使える様になり、アコースティック・ギター・サウンドをよりクリアーにそして幅広くサウンドメイクする事が可能にした。特に最もむずかしい事の一つであったアコースティックを上手く録る事は自宅録音MTA派にとって、このラインで書けるアコースティック・ギターの出現によって一気に解消されてしまった。この様にステージを中心とするサウンド・シーンに大きな変化を与え始めたエレアコは、更にアコースティック+PUではなく、「エレアコ」として一つのキャラクターを持つ様になる。当然アコースティックとは一味違う「別」のアコースティック・サウンド、いわゆるエレアコ・サウンドとしての独立したキャラクターを持ち、ソリッド・ギター感覚で弾けるネックスタイル、ボディシェイプ、ヘッドデザインなど、エレアコというアコースティック、ソリッド、エレキに対して新しいタイプのギターとして個性を持ち完成度を高めてきている。この様に、エレクトリック、アコースティックは、単にアコースティック・ギターのサウンドをピックアップするだけのギターではない。それだけに基本的なアコースティックとしての鳴りの必要性、サウンド・カラー、エレクトリックとしてのサウンドキャラクター、Pick-up、コントロール、アウトプット、ネック、ボディの形状、など多くのポイントをチェックし、ニーズに合ったモデルをセレクトする事が必要となってくる。まさに新たなエレクトリック・ギターと言えよう。



タイト&クリアーな
オールソリッド・タイプ

MORRIS/TF

シングル&
ハイ・コストパフォーマンス

MORRIS/MD

ミニチュア・スケール
ライト・ウェイト

MORRIS/MG

オリジナル・
ポチフォルム傑作

MORRIS/MF

クリアー&センシティブ
: 12 strings

MORRIS/12

トラディショナル
: クラシックモデル

MORRIS/MC

トラッド+ハイテック
Pick-upサーキット

MORRIS/E・A

ニューエイジ・オブ・
エレクトリックアコースティック

GROOVIN

エレクトリック
“リアル”アコースティック

Rumbler

スムーズ&イージー
for パフォーマンス

Tornado/ZII

ワイド・レンジ&
オールラウンド

Tornado/ZIII

アーティストモデル&
レフトハンド

Tornado/Performance

クリアー&メロウ
12 strings ハーモニー

Tornado/12

ハイクオリティーの
こだわり

ACCESSORIES